



45
1198
2

島田
藏書

6, 12, 23

徂徠先生南留別志卷之三

門人 南總 宇惠 校訂

⑥

⑤

一 刀自八負の字をさるりさひ
一 曾あおけよりかひさひふ
一 阿きとも負の字なるア
一 やちも八果よりる木なり
一 かろをちもつけ上毛野下毛

南留別志

野史かきくたはくつをの國
下つをれ國なるを後りハ毛
の字と除きく訓ハれとる
とのそり色二つなから何とらぬ
るにあらぬ

一閱け尺すとよむハ換の字より
出りけんすそいふとみかたを

尺とよむなり

一犬鶴鶴尊と菟道稚郎子と國と
ゆつりたぬるハ何りかきある
なりこれよりよきて自殺したぬ
るハ吾邦の人の心なる

一稚郎子とくいらくこそよむ伊良

古詩も郎子崎なる

一 いなをゆるせゑとていふハ農を課する
 多といふなり負の字の義ハ
 阿らき布穀多なる一
 一 喚子多ハ子と喚ぶ多なり後
 につける訓のやうなり阿らき
 神ハ現人神なり人堂阿らき
 多神堂いふやうなれハ是も後

一宿祢宿屋少名回（回）るなる一連（回）
 一ハ村（回）えそふ（回）るなる一
 一桃花多つきとよむ鶴又鶴（回）もか
 一くそふもふとの人ハきそふ
 一田舎の人ハきそふもふ
 一つりみりよりなるものなりハ箇

⑤

なりあううのひみの目なり
るを目を略しつれは日の字の訓
どうといふやうなり
一ちちみちちよちちなり
とちちいなりかゝなり
はふの精やなり
一このか山山の名はなり山の

⑥

さくてものかるなり
ト
一山なり大なるなり
これなり隠の字なり
ありくのちなり
一女の文子かかハハなり
根なり

一 めてゝハあすきなりかし
しをなくいかしするけもなり
なり

一 いさゝしつね衣やすてふなり
のそそいふねとも上総國は阿
理いさといふやといひてふとち
といふなり

一 なくふさゝし何といふなり
一 何んぬいふもなりそのふ田舎
初なりそゝし人のそゝあなれ
そ原氏おほ子なり
一 さめゝのさめハ驢馬なり
一 釈迦牟尼佛をにらゝそよむか来
部なり

一 瓊に^もむ赤玉^も居^るや^るゆ^{なる}

ア

一 越人を^何し^ひく^もん^はり

一 何し^一男^ハ何^さる^男を^し

る^{なり}越人を^よめる^ハ敵^人の^業

なる^にや

一 牛天神^ハ物部^{大人}神社^{なる}下

大人^をう^しと^む日本^紀み^る也

一 酒^ハ三^献なる^一し^ハく^しも

し

一 魚^すめ^ハ魚^すむ^魚に^れハ^魚に^く

る^個も^さも^かす^り

一 燧^袋を^し拍^ハ燧^を帯^るを^し

より^起れる^名なる^一し^ハく^しも

い煙草もる銃もあつたすけれは
燧をふとんちすおしあつたな
いと魚いる

一やなぐい矢のふ及なるつー上總の
國りあらけいといふ所有り新安
そめくなり

一鶴とくといふ鳩とあやましくなるな

るー

一帯刃をくくはさそよむ上総國の
人いそつたきといふなりちき福も
いそつたきなり

一このころの八十氏といふ物部の姓
は支別あくて八十姓あるなり姓氏
録のやするんるー武士に氏あ

きりきりといふ誤なり
古武
きりきりハなきなり

言ひなまなり

一古ハ俗人の入道——るハ沙弥
ハ有テ成敗式目ハ有テ新發トモ
ハ有テ多田新發トモ和田新發トモ
也沙弥ハ沙弥戒トモ有テ一ハ新
發トモ菩薩戒トモ有テ一ハ宗

かりのねとるに内を斜臥中指
とる斜の字を耶かけり耶は斜
と通ひて又耶と耶と通るを音
の異なるともなきす皆通ひ
なるなり

一 律と事と通するなり古に有るなり
れども後には通用をぬるなりと

吾邦は多く用ゐるなり

一 白氏文集に正如身後といひ正如
すく下よりくるるなり古の書は
正如身と書けてするすことあり
正如のきまゐるなり
一 まえ穴といふは古をやりくる穴
なりまえはまゐるなりなり享保六

年の比英令のやうなる砂いてくれ
てもいふ年のいぬあやうりやうが
らすなりぬ

一 隣をうもえん懷をくもえんこもいふ
もえんハ魚えなりハ魚ハ魚ハなり
もく大なりくもえんハ赤口黒口そ
二 種有赤口もく黒口もくといふや

あやなる一

一 上徳國の南の方ハ人の福なきを
こそえいさうあいうはさう坂倉
といふ所を所のものさあきといひ
それより精くさくくといひる
ゆゑ後また名字をも沢倉に改めり
ゆゑる國くも多かる一

一 極子尊のかつらとを急ぐる影をセ
 みがくふい急いすを急るもいふ
 よる縁かく人のふりかくるら
 づるなるア

(6)

一 因侍國子菱家の初をたてめて造
 せる智りれ子縁像を替はるのう
 子さひて威震なる相のより孝孺

かたりきは下の赤形なるア

一 庶神を皇の清像よとの幞頭をき
 なるるふんはるア 漢の代の冠な
 るア 日中武する者危なとも漢の衣
 冠なるア 令の比よりこの幞頭を
 用ひぬア され共袍は花山院よりいふ
 ばかりあり阿るア 奈る子孝孺を皇の

時の縁阿るに女の装束唐のやうて
けふもときよりこの末摘花の如
ハきぬも古代の装束なれはけころも
なるべしこの原氏縁は皆後よりか
きくる抱くまゝとのすうさうし
あつるなるべし

一男の装束なるべし男風さうふなり

て眉作をなけしやうせし比よりの
るなるべし

一轆をさうづきよむあつるまゝ
るなり日本紀に隠すやうなり
てととをいつけなむらうのまゝ
よむなり

てくれなぬは是蓋なり

一 福祿壽といふ福星は福星壽星といふ星を命の星とあるものなるをいふはひともうてかぶ形をいふといてん

一 能く神の形をよきほるに唐冠をかき吾邦のむしとてくくるおふなり末社の神のくくりくるお

もむしのかぶ服の者なる所へ聖徳太子の定め給くる十二冠をかきおなるみや

一 日本紀のみもちくとなり佛經のみもちくとなり儒書に点つけてよむもちくとなりむの学者ちくくちみちよいてからみもむまにむの

はくぬは是妙や生死の苦海に流る
るをいふ事

一如是にあらずといふるは佛の遺戒
て何事の經のちめふとは妙
何難の親ずあるを何らにすとい
つれども翻譯の三花うほ語をあら
ぬゆえ梵語のまに翻しふかこ

て何難の親ずあるぬやうになりぬ
一と人々そのね衣をきるに道
家の詞を用ひり
一三徳をさくせんといふに三のま
用はさるちるゆゑちかちるを
いるをせ候のちてまのまを
かくるちり

一昔の侍士もろ大康をかきけるハ
年号をいへるに應やぬるハ
ミ
一きハ菟なり根をいへるをねきと
いふていへるをいへきといふ
りて用ゆるをかりきといふハ一字
なるも急ひりといふ上徳國の

民ハ並をいへりといふなり
一ハ紀世はいふの陣といふ詞
る陣の座なるの陣といふハおな
る
一漢内平内菟内ハ内舎人なり古
作ハ作ハさきなる
一かりも日なり猶ハ麻をいへる

なりかりとこの洞と鹿子もなる
あや

一市前ハ女と称する洞なり伊勢三郎
の妻のぬすりくるをねこすにやござ
やござといひたりや鹿矢田鹿太平記
よるやハよぶなりこのむき目
女とござといひぬくござの上を黒

回

いづるなりござんともぬきハ大名の
妻どもあよまてえいなるぬき
是ちハ何きのむよりのもなるあ
一重形ハ行の字より僧あよまける
洞なり
一吾邦ハ車と牛よりやるハ知の
制なり

一 名を及すといふ。何者の志を
一 ぬるものなるをせまはる大
人の定まる法の様になぬるに上を
まなひたり。河花集の比よりやう
也異國は帝の明帝のよのわくに
おとしまの世まで人の名をかへる
るものなり。唐言をてひまの

かよるにふあさもあらは。は國
あてハ和訓までよむあれハか
さまふけもなり。唯占術のつり
なりて人のまゝなり。韻鏡といふ
おハ唐言を正すまゝ作る也
なるやうか。このあのをにまゝハ
たろつたるものいふなり。韻鏡

よのやる字ハ一音なる字多き中お
て通くおちぬる字を一つ出せる
おちぬる字のふしつのも者込を
さむぬる字を一つ一音の字多
きゆふはつともぬる字も者込け
れともさつともぬる字も者込
のふしつのもぬる字のふしつのも

やうにふしつる字もぬる字も
はちふしつ字の同くつてうぬる
やうの同く人をも皆同くぬる
なりぬる字のたこぬる字もぬる
れともさつともぬる字もぬる
れ昔のふしつぬる字もぬる
おこなつて一万の人の何つたり

る都子て、回名の人、百も亡
百も何もなきなり

一 妻子うまれ、やうきいすの系
房々姓をさうある術なり故子細
音ふ、い、姓の字より

一時の禿のりす、大玄經より
一 魂のりすのり、列仙傳より

一 か、ちきよりか、こからん、さへ
系子か、よ、い、白皇侃より
説より昔の博士うける語なり
一 坂田のきん、さ、公節なり物部
の系圖より

一 物部系圖の肉り他、ち、勅の大楯
といふ物り、盾人のい、大楯より

るを何ぬ文字とつけらるなる

一

一 卩是とにさる處その卩是の

ひまざるといふ形はつぎていふ

まははにさとのなりさといふ

るはなりて何さなり

一 絶句と三行三字律詩をあり

字はかくといふ歌の懐席のさ

似てゐるの傍のさといふ

ある

一 吾邦のむうに一字平出と一字空

まてなり明解の法は五字提頭

てあるなり

一 一のむすひふハ難矣の形なる

一羯鼓のなにかいといふる播の字
なり家の播は来の字の音をかり
うるなり

一十の指を十皮に穿ていふるは
そ宗より即相をむすあり十皮に
穿て十の指のいふくみあつて
くるより出たり



一情挺をえんがうといふは吾邦の名
と秋津洲といふも東方といふも
なるなり

一ちよくハ鍾なりさらハ盞なり朝鮮
語なるなり

一ハ常樂常の字とすうて喝のされ
共平家物語に在衡のそれなり

まにこーやうらくこいをえれむ
ーい溜まで喝するー

一 傍たり七里けんといみけんといふ
るやと云る者見敗かく見敗見
敗永といふ児文有り悪魔を拂ひ
きさるふなり

一 成のむすめを中將姑といふは

かー女の名子友多をけくるはまの
ふなり

一 ちやぐちまの赤口神なりみむ日ハ
みま日やハ急日ハ九合日なりちやぐ
日ハ赤口日なり

一 伴系國子氏長者を藤氏源氏を
かきぬる

一 三郎の笛は玄宗皇帝のるなり
いた誤てう牧笛のるはあり
一 久しうハ尾氏のたう後子撮子
なり

一 熊野を蓬萊といふ三の海といふ
よりなる一 熱田といふハ明神楊貴
妃となり強るといふ俗説よりなる

なり

一 八日十二日と某師の縁日といふハ尾
その刻のハ子通つと十二神よりな
てなり外のもは類なる一

一 鳩をハ鳩の使者猿を山王の使者
といふもちまのふさふさうの
さとりていなる一 鹿を春

日そいふもかきなるト

一悔ふもそいふ言なり吳言けな

里けハ急なりふふハ一魚ハ急

のト

一ゴブーりそハ困のふハ田舎人ハこ

ちりとり

一ふも惜きそいふハふもハ屈なり

一葛ふすかづらむといふ言なるト

一藤原諸葛藤原子房藤原伊尹相

如ちと皆古人の名を慕へ里博雅三

位も伯牙を慕へるなるト

一紀貫之小野好古平國香ちとハ古也

の文字ありけり

一老人とトやうそいふハ丈なる

一、尉とかくハ誤りなりハ
波也なり阿まハ梵語阿耨多
羅

一、弓鉄砲の頭を物頭といふを字同
てする人の者頭とかくハ誤りなり
物あり物といふ物ぎを物ぎやまを
皆武といふを物といふなり物

部より出たる河なり

一、博雅三位行平中納言なる名の下
に友といふは唐朝の例なり

一、戸といふは異國にあるもの之族
といふなり氏族の貴賤を分ける
なり同き姓ありても朝臣となるもの家
も阿まといふ人となるものありては事宿

神をなり連をなるあまのな

一神代よりある人とは神

ままつりいれい神まつり人

の代よりある一神武帝の時

みいる神なる一

一或人の曰くやちり社の字をかく

るハ吾邦の神は皆土地をさめる
ちなるい

一日本國をきりて大日の本國と

いハおろなる滑稽なり

一雀部さいべとよむさきといふ

なりさきハ鶴鷄とかく依木も

是より出づ

一 波利糸女巨旦大又ハ朝鮮のなるなる
るや蘇民将来マハ朝鮮子蘇姓
阿るなり

南留別志卷之三 終

徂徠先生南留別志卷之四

門人 南總 宇惠 校訂

一 市曹司ハ曹子の誤りなることハ
かりてあやまることハ一市曹司
君やいふものなること

一 町の田ノ全ハ米二十五石なるは内
正統一石一斗なりと位田職田税と

いふす二十ふるとえちうかう納む
るちり太政大臣の職田四十町ふ
ち龍太の大臣え三千町七百ふ
十ふ大納言二十町ふ百ふちり太
宰帥八十町二百ふ千ふ大貳ふ六町百
ふ千ふ少貳ふ四町百ふ大監少監大
判子ハ二町ふ千ふ大工少判事大

典防人正主祚持共一町ふ六段四十ふ
少典陰陽師醫師少工筆師主船
主厨防人佐ハ一町四段三十ふ令史
ハ一町二十五ふ史生ハ六段十ふちり
大國者ハ二町六段六十ふ上國者大
國介ハ二町二段五十ふ中國者上國
介ハ二町五十ふ下國者大上國者二町

六段四石中國掾大上國員一町二段
三十石中下國員一町二十石石方重
又位田をいふる一石八十町二
千石正一位も同一段一位七十四
町石八百五十石二石正二位六十町千
五百石位二位五十町石三百五十石
三石五十町石二百五十石正三位八

四町石石位三位三十四町八百五十
石四石三十町七百五十石正四位二十
四町六百石位四位二十町五百石正
位十二町三百石位五位八町二百石
何處も現米の積置あり令よ見
るハ右の通りなりし式子文
章博士の職田五十町等博士の職

田を^〇と^〇る^〇れ^〇ハ^〇何^〇道^〇の^〇友^〇に^〇職^〇田^〇
有^〇る^〇な^〇ら^〇一^〇ハ^〇外^〇子^〇禄^〇と^〇り^〇の^〇地^〇食^〇
封^〇を^〇し^〇た^〇何^〇季^〇大^〇政^〇大^〇臣^〇と^〇て^〇一^〇
位^〇と^〇か^〇き^〇と^〇る^〇ハ^〇官^〇位^〇と^〇に^〇し^〇る^〇
と^〇き^〇し^〇め^〇れ^〇る^〇現^〇来^〇三^〇千^〇石^〇な^〇る^〇禄^〇
食^〇封^〇を^〇と^〇る^〇一^〇ハ^〇二^〇万^〇石^〇な^〇る^〇禄^〇
ら^〇一^〇國^〇を^〇た^〇と^〇ハ^〇五^〇位^〇の^〇位^〇田^〇と^〇る^〇

し^〇て^〇僅^〇り^〇現^〇来^〇二^〇百^〇石^〇な^〇る^〇なり^〇
紀^〇賀^〇之^〇ら^〇土^〇佐^〇と^〇なり^〇る^〇時^〇海^〇
賊^〇と^〇あり^〇る^〇と^〇に^〇し^〇る^〇も^〇ある^〇
一^〇ハ^〇四^〇位^〇の^〇地^〇一^〇ハ^〇郡^〇縣^〇の^〇代^〇か^〇
ら^〇も^〇日^〇本^〇も^〇臣^〇下^〇の^〇ゆ^〇り^〇な^〇る^〇なり^〇
な^〇る^〇を^〇か^〇る^〇事^〇の^〇様^〇に^〇て^〇大^〇洲^〇の^〇
よ^〇く^〇治^〇まり^〇し^〇る^〇淡^〇海^〇の^〇制^〇度^〇の^〇

一 市成敗式目の第一條に神社
 肥子改めたる類なる一火の國を
 てかき替た家なる一火の國を
 とすたるふたるや後火の字を
 一國に小日野といふ地名あり
 海丹といふなり一
 うにハ棘贏なるにマハ訓ハ
 古法をよくせむふておるやうに
 力あり仁儉の徳をく一ないす
 悪代りたりなれ其制度の
 ける異國ふとあるまきなりを
 ちる信市のおくをるに恭儉の
 市成敗式目の第一條にの

◎

◎

一 市成敗式目の第一條に神社
 肥子改めたる類なる一火の國を
 てかき替た家なる一火の國を
 とすたるふたるや後火の字を
 一國に小日野といふ地名あり
 海丹といふなり一
 うにハ棘贏なるにマハ訓ハ

第二條より佛ものるをいふ令
 子及佐令職負令の次子神祇と
 僧尼とを出せしむる本はさるなる
 下
 一 ひとこ子怪とかしひるめり日と
 五をるに本ふみあらさるなり
 かえーらなるからひるさいひ

て子とめとまて男ととまて
 まてなれはえ来はまかち
 かるー
 一 押領使よりしを候この押領
 是の御子なりてとを勅賜
 ならでたてて領せむ人なるを解
 するは誤なりさらば何そて傳の

字とつける奥の軍記の紅文ハ
陣頭とあると得るハ押領使と何
李國よりと得るハ出軍兵と
百つれて出る頭のもなり押の字
のさハかくるるなり
一みくハ尺ちの得るハ下
一庄よりおと郡のやうに思ふ

を得るなりと庄と園と新田に
何のハ一と田はあま新田の
内にも都は居るハ友の人
ハ又ハ社の封戸なりと
國家代友の得るものと社國と
なりとされと庄の名なり地も何
一何の國何の郡何の庄何村と

かならずいふにあやまりなる一
國郡郷を次第するに本法なり
郷の名に紅名類聚をせり
一潮下といふ田賜田をも持てる
人の罪を何ひていふひては田の
ぬなくちなりといふなるを潮
國といふ國々の解任しては國の

何きいふといふなり
一國といふ國をもとむ護といふは
来る後いふ家より還る友人
といひいふなり國をもとむくは家都
子何りかならぬては不務とそ
るまでいふ國務をかまぬるになむ
いるも國をもとむくは家都

一から七日まで古く玉をたぐらうと
やる。後のまきはきくうをうら
やうなり。大かこいふをうら
とやる。うをまはくらのつうけを
されうなる。

一古く公田を耕す民を良家とす
是則武士なり。正税を一町の田より

一石一斗の半を出し、外は徭役とす。
む新田を耕すもの、奴婢なり。耕
す田の米は、おらさる人のものと
なる。木の葉は、口分田といふ。おをたて
是より、税といふ。さぬ。なる。良家
の口分田は、二般なり。現米とる。る
是より、税一斗一升出るなり。奴婢の

口分田ハ三の三分一なり現来一石五
七斗なりこの百姓ハ奴婢の類
なり

一この世に六位以下と友位のかう
に思ふぬるハそのむろ一五位以上
に在り位田ありて六位以下ハ
ち一後り國介なとを友になり

これハ正藏田も正禄子なるをぬる
ハ京都子有て介子て國務を取
行つて急國衛その雜用の料子
定めたる郡稻なるハ介の人使とな
るぬこれより以下掾目郡司等皆
を友子なるをぬる藏田ハ之を正禄と
有るぬかふ人の目よりこれハ京

友の六位ハ遊まりかぬおなほ子
 木のれと信階ハさのこかたもて富ハ
 木ともやれハ木のつうら友位の
 やに思ひぬるにありけるなるも一
 一ハ歌仙といふやい古この序子ハ
 人を出せるよりいつりふよふと
 さして三十六人子て何なるあふ

やのうと傳言せるハ後の世の人の
 るを好めるなり丈山ハ詩仙堂と
 けくれる又物も一なり古ハハ
 なも歌より詩になるひるに後の
 世ハ又詩より歌もなるも皆歌
 のやうになるハいふもや連歌あ
 れハ藤白有歌合あれハ詩合あり

百人一首あれば百人一首ありかく
あゝまなひにけりぬれはは
とくなく是也

⑤

一この書名のやうなるものあるは
孝にぞ友に職する友長上友に
いふ有職する友にふくむのせし
役人といふやうなるものなるは

それよりふ役家や散位の人ハ長
上友なる長く上するふといふ
なり上するふは業をするなり
才伎長上といふは藝者のふり
つとむる役家なくして書をする
ゆゑといふなり

一君臣のふりたるにふくむ郡縣の

代の名なり郡縣の代は子なり
かろ君はなり

一薩摩の防人は防人のちなり
る

一執位はいふは軍功よりなり
はなり十二等ありて執位は
三位の下に位の上より列すは第

配車して執位十二等は位八位の下に
列す衣服は唐人よりく黄袍を
きる執位の次第は軍功より下は田
を賜ふを設けしを人といふ
なりや後にはたふさるなり
一餘綾郡やゆぎの郡よりむすなり
きの綾やなり綾をるよりむす

よ。う。の。う。の。か。ち。を。解。解。言。み。て。ぎ。と。
よ。む。な。り。

一。半。匹。を。一。端。に。い。は。し。て。な。り。令。子。
え。く。る。一。端。も。二。匹。に。回。し。る。な。を。
む。丈。二。尺。を。い。は。し。な。り。学。生。の。束。脩。に。
布。一。端。な。り。

〇〇

一。入。唐。に。い。は。し。る。昔。の。博。士。の。い。う。

い。は。し。か。つ。る。あ。や。日。を。表。し。
る。詞。な。り。

一。封。戸。の。一。戸。に。稻。四。十。束。を。出。す。米。
に。て。二。石。な。り。大。政。大。臣。に。三。石。戸。
六。石。石。な。り。左。太。大。臣。に。二。石。戸。四。石。石。
な。り。大。納。言。に。八。百。石。石。六。百。石。石。な。り。一。
石。も。八。百。石。石。な。り。二。石。も。八。百。石。石。二。石。石。

なり三位ハ二百戸八百石なり
四位ハ三百戸六百石なり
五位ハ四百戸四百石なり
六位ハ五百戸二百五十石なり
七位ハ六百戸一百五十石なり
八位ハ七百戸七十石なり
九位ハ八百戸四十石なり
十位ハ千戸二十石なり

一古の田代のこもしとよさきまてハかゝる
まき子式子のやうに肥後の國の
正税と解各四十万束國々料四万七
千八百八十七束又殊々料二千束府
官公廨三十五万束衛士料三万七千
七百九千七束修理府屋舎料一万束
池田料四万束救急料十二万束餘四

料十七万三千四百三十石束合やう百
五十七万九千百十七束より米になる
し七万八千九百五十五石八斗五升
なり是百石の場あり石四斗納る
積まられ八百七十九万四千四百六十一
石餘なり上総國は百六万千束米に
して五万三千五十九石なりたの積ま

百二十万五千六百八十石餘なり甲斐
國は八十三万石五斗束米にして
二万六千七百六十五石たの積ま
し七十六万八千三百石餘なりと
の積まより大い三倍せむたの
子信田磯田加田賜田なるのふ税の田
も有る一むれむくは計のあり田

地多きやうなりこきる子明らうな
らん人よつめさきなり

一大学寮の料常陸國より五万四千束
近江國より一万束丹後國より八百束
伊豫國より一万束備前國より一万
千束越中國より一万束合て九万
五千八百束米にて四万七千九百

石なり学生の料上野國一万束
陸奥國四千束出羽國二千束播磨
國一万五千束合て三万二千束米に
して五千六百石なり何れも現
米なり

一伊達家より八幡と城子貯るる
古陸奥國より六萬の米といふる所

孝一 例のとき並びくるなり

一 古に弓矢取るは武士をいふな

里大將のころなるをいふなり

法をうつるきつるを思ふ

筆よをいひ出るるなり

ア

一 俸矢とて其途のえやけり持

行くおなまといふ子路の郷を
結るんちなり

一 と時くがいとけい御公廨をかく

なりなハ國の年貢米の内を

京都にたこびのめするを正税と

いふ國子より置くを介掾目

等の國子もがから取て雑用にする

と公解といふ職田に金く新田
用おなり公解に友府まで
難用するなり是より一も私
なりぬれ出るるを公解
といふなり

一と神といふは茂家よきなり
一と國は神よりなるをいふなり

國は神の郷賢なりと神の名實
なり

一と坂彈といふ者なる野にあ状
なる香坂彈といふ虎綱といふ
されと甲陽軍鑑に他人の物に
なるなりよく阿もといふなり
一ととといふ榜示なり傍に

かくハ誤なり

一被^レ友^ヲ被^レ友^ヲかくハ誤なり支配

ち^ノの^ヲと^ハなり家^ノら^ハい^ハの^ヲ

よ^ハあ^ラす

一ざ^ラが^ハ鑲^ニ嵌^ルなり

一と^ビや^ウハ銅^ノ鍍^子なり

一こ^リと^ハ行^キなり旅^ノ荷^ヲお^ハす

い^ハなり

一狐^ヲや^カマ^ハ射^ス干^ナなり狐^ノ子^ノ似

て木^ノり^ノの^ハお^ハなり

一か^ンこ^マい^ハ鸚^ノ哥^ノの^ハ唐^ノ音^{ナリ}なり鸚^ノ母^ノ

の^ハい^ハさ^マと^ハい^ハなり

一目^ノ代^ノと^ハい^ハめ^ハぶ^ハい^ハと^ハい^ハの^ハい^ハぬ

ら^ハす^ハさ^ハん^ハ代^{ナリ}なり判^ノ友^ノ代^ノと^ハい^ハ

一 願参る子と何れかある
 用るハ儼るなりする人の数
 由なるにあり 延喜式なり
 一 書いひたりなりいづぐと
 よむゆい舞楽相撲よりなる
 なるなり

一 五部地より六部地なり
 誤て庭のゆきあるなり
 一 神さるゝに昔は神の子孫を
 神さるゝに昔は神の子孫を
 一 談ふといふといふ 講釈の
 なり

一 さんぐといふ 妙法ハおをいふ

の死しうりきりさういふも
起きんなる

一猶子まむひのりなるを僧西
とある人の公卿の子かまなる
いふかすう様あれも本よりま
一更

一折角といふは折木家の中

まありて角のひーけるを人の
まゝていふはゆの角を折る
よを何もしるへとするを
いふなり

一むうてまゝまゝいもぐなる
久満なり百目とてうといふも
ありのひさしきりきり日と

くるなり

一 女房よりあそびたかりまふを
度の字をけけりと思ふは源軍
物語より草子は男を女を
いふあり部なる也

一本朝よりハ吾邦よりあなりと
思ふを語なりハ裁集の序に

うよの風情よりあハ吾朝より
あそびをきくなり古ハ
とあまらさる一掃なるを

一 四姓よりあそびあなるを源
平藤橘と四姓といひるハ佛法を
修するあよりあそびも空のものを
よと思ひてあそび擬していふ

なりとくハカ^ハ田舎の人^ハはけ^ハは
 より外^ハ姓^ハハ^ハと^ハ思^ハ外^ハの姓^ハ
 の人も皆^ハけ^ハは^ハの^ハ内^ハに^ハあ^ハる^ハ
 れ^ハと^ハハ^ハま^ハし^ハと^ハけ^ハは^ハより^ハ外^ハ
 なる^ハや^ハう^ハなる^ハう^ハり^ハ安^ハ倍^ハは^ハ朝^ハ
 原^ハ九^ハ子^ハ巨^ハ勢^ハ高^ハ階^ハ春^ハ日^ハ滋^ハ野^ハ滋^ハ岳^ハ笠^ハ
 苅^ハ田^ハ首^ハ城^ハ首^ハ井^ハ師^ハ船^ハ多^ハ麻^ハ賀^ハ茂^ハ家^ハ

原^ハ津^ハ輔^ハ佐^ハ伯^ハ都^ハ布^ハ瑠^ハ高^ハ丘^ハ三^ハ原^ハ三^ハ畠^ハ
 大^ハ原^ハ栗^ハ田^ハ田^ハ部^ハ島^ハ田^ハ田^ハ中^ハ之^ハ橋^ハ若^ハ野^ハ
 錦^ハ部^ハ志^ハ階^ハ志^ハ紀^ハ清^ハ室^ハ布^ハ勢^ハ秦^ハ槻^ハ本^ハ
 高^ハ早^ハ部^ハ朝^ハ野^ハ蕃^ハ良^ハ六^ハ人^ハ部^ハ都^ハ勢^ハ賀^ハ
 陽^ハ子^ハ百^ハ木^ハ部^ハ安^ハ農^ハ高^ハ戸^ハ川^ハ上^ハ石^ハ川^ハ鶴^ハ
 高^ハ吉^ハ野^ハ猪^ハ甘^ハ茨^ハ田^ハ手^ハ島^ハ坂^ハ合^ハ丹^ハ羽^ハ稻^ハ置^ハ
 飯^ハ高^ハ大^ハ坂^ハ子^ハ百^ハ庵^ハ波^ハ多^ハ黒^ハ川^ハ長^ハ谷^ハ部^ハ川^ハ



南越志卷四

十四

蘓^さ蘇^そ部^ぶ 沼^{ちの}田^で櫻^{おう}井^{けい}服^{ふく}部^ぶ 岸^き田^で平^{へい}郡^{ぐん} 佐^さ
和^わ良^ら坂^{さか}本^{ほん}日^に下^げ部^ぶ 阿^あ比^ひ古^こ春^{はる}日^に部^ぶ 三^{さん}枝^し
綿^{わた}木^き土^ち形^{けい}大^{だい}石^しな^なの^の類^{るい}ハ^ハ姓^{せい}なり^{なり}也^也
ハ^ハ大^{だい}形^{けい}ハ^ハ子^して^てハ^ハ姓^{せい}の^の内^{うち}子^しなり^{なり}也^也
ハ^ハ子^しなり^{なり}也^也
一^一 跨^かを^を阿^あ比^ひ古^こ春^{はる}日^に部^ぶ 足^{あし}迹^{あと}の^のま^まこ^こ
り^りハ^ハ子^しなり^{なり}也^也
一^一

南越志卷四

十五

一^一 返^{かへ}閉^ひミ^ミハ^ハ陰^{いん}陽^{やう}師^しハ^ハ幸^{きよう}の^の時^{とき}ハ^ハ
す^すハ^ハ子^しなり^{なり}軍^{ぐん}法^{ぽう}者^{しや}の家^け子^し遍^{へん}見^{けん}と^と
ハ^ハ子^しなり^{なり}也^也
一^一

南留別志卷之四 終

